

サステナビリティマネジメント

企業ステートメント	サステナビリティマネジメント・推進体制	クラレグループのマテリアリティ
クラレグループ行動規範	活動目標と成果	リスクマネジメント・コンプライアンス
コンプライアンス・ハンドブック		
トップステートメント	品質マネジメント	

サステナビリティ マネジメント
サステナビリティマ ネジメント・推進体制
クラレグループのマ テリアリティ
活動目標と成果
リスクマネジメント・ コンプライアンス
品質マネジメント
安全報告
環境報告
社会性報告
コーポレート・ ガバナンス
GRIスタンダード対照表 (内容索引)
クラレレポート / バックナンバー
ランドセルは海を越えて

CSR活動目標と成果

2018年度クラレグループのCSR活動目標とマテリアリティ

	活動項目	目標	マテリアルな 項目	バウ ンダ リー ※	成果
経営	中期経営計画	「PROUD 2020」 (2018～2020) ・競争優位の追求 ・新たな事業領域の 拡大 ・グループ総合力強 化 ・環境への貢献	経済パフォー マンス 製品およびサ ービス	◎	2018年度よりスタート した中期経営計画 「PROUD 2020」の施策 実施内容については中期 経営計画『PROUD 2020』をご参照下さ い。
安全	保安防災	・安全活動と業務と の一体化の推進 ・安全活動への納得 感の醸成 ・潜在リスクの発掘 と顕在リスクの極 小化対策の実施 ・個人の不安全・無 意識行動に由来す る災害の防止 ・グローバル管理体 制の構築と運用	保安防災 労働安全 物流安全	◎	参加意識の向上、異常の 判断基準の明確化、行動 を起こす出す前の一呼吸 おいた確認など、現場で の工夫を凝らした取り組 みにより安全水準が向上 できました。しかし、個 人の不注意・無意識な行 動による災害が多く発生 してしまい、更なる取り 組むが必要です。 また、グローバル対応の 安全活動マネジメントシ ステムを構築し運用開始 しました。
	労働安全				
	化学品・製品 安全	-	化学品・製品 安全 顧客の安全衛 生 製品およびサ ービスのラベ リング	◎	-

	活動項目	目標	マテリアルな項目	バウ ンダ リー ※	成果
環境	地球温暖化防 止	国内：温室効果ガ ス排出量 【環境効率】 2010年度比40%向 上（2020年） 海外：エネルギー 使用量 【環境効率】 2010年度対比10% 向上（2020年）	エネルギー 製品およびサ ービス	◎	国内では約9,600トンの CO ₂ 排出量削減対策を実 施しました。その結果、 国内GHG排出量の環境 効率は、2010年度対比 で向上しましたが、中期 計画の2017年度目標値 には未達でした。一方、 海外のエネルギー使用量 の環境効率は低下しまし た。
	水資源の有効 利用	海外：水使用量 【環境効率】 2010年度対比10% 向上（2020年）	地域における 水源	○	国内では具体的な目標は 設けていませんが、有効 利用に努めました。海外 での水使用量は、生産能 力増強等に伴い増加しま した。
	化学物質の排 出管理	国内：日化協PRTR 物質排出量 【環境効率】 2010年度対比 100%向上（2020 年）	大気への排出	◎	国内におけるPRTR物質 （法対象物質及び日化協 自主管理物質）の排出量 は前年実績を上回しまし たが、環境効率は2010 年度対比で向上しまし た。海外では各生産拠点 においてそれぞれの化学 物質排出規制を遵守しま した。
	廃棄物の有効 利用	国内、海外：廃棄 物発生量 【環境効率】 2010年度対比10% 向上（2020年）	排水および廃 棄物 原材料	○	国内では2007年以降継 続している「廃棄物の有 効利用率90%以上、最 終埋立処分率1%以下」 を維持しました。また、 廃棄物発生量は前年実績 を下回り、環境効率は 2010年度対比で向上し ました。海外については 2010年度対比で低下し ました。
	環境会計	-	環境全般	○	環境保全に関する投資額 は752百万円（前年382 百万円）、費用額は 2,399百万円（同； 2,359百万円）でした。 ➤ ウェブ参照
職場	働きがいを実 感できる人事 施策	社員に対する成長 機会の提供	研修および教 育	○	世界を舞台に活躍できる 人材育成の一環として、 部長クラス、課長クラス を対象とする集合研修や 担当者レベルのトレーニ ングを実施し、国内外で 約50名が参加しまし た。
	ダイバーシテ ィー・ワー ク・ライフ・ バランス	・女性活躍推進 ・働き方改革	多様性と機会 均等雇用	○	風土醸成・意識改革を目的 とした部長クラスのワー クショップや、準管理 職クラスの女性社員を対 象とした研修の実施、ノ ー残業ウィークの実施、 フレックス制度・在宅勤 務の試行などにも取り組 みました。
	心身の健康管 理	メンタル対策、生 活習慣病対策の継 続・強化	労働安全衛生	○	管理・監督者（本社：管 理職、事業所：統括職以 上）のラインケア研修受 講率100%を達成しまし た。
		下記活動の実行： ・「ランドセルは海 を越えて」			

	活動項目	目標	マテリアルな項目	バウンダリー※	成果
社会	文化、学術、環境、福祉分野での貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年少女化学教室」 ・知的障がい者の作業施設運営 ・「クラレふれあい募金活動」 ・地域とのつながりに重きをおいた活動 	地域コミュニティ	◎	クラレグループ社会貢献活動方針に則り、文化・学術・環境・福祉分野を中心に活動しました。

※影響が発生する範囲 ◎ 組織内外 ○ 組織内

企業情報	製品情報	研究開発	サステナビリティ	投資家情報
会社概要	事業から探す	基本方針	企業ステートメント	経営方針
ごあいさつ	製品名から探す	技術と製品	クラレグループ行動規範	IRニュース
企業ステートメント	キーワードから探す	組織・体制	クラレグループ人権方針	クラレって？
役員	製品のはてな	歴史	トップステートメント	業績・財務情報
組織図		トピックス	サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画	IRライブラリー
沿革			クラレグループのマテリアリティ	株式情報
主な受賞歴			Planet	IRカレンダー
主要グループ拠点			Product	よくあるご質問
会社案内動画			People	
テレビ番組動画			ガバナンス	
広告ギャラリー			GRIスタンダード対照表（内容索引）	
			クラレレポート（統合報告書） / サステナビリティウェブサイト	
			ランドセルは海を越えて	
			イニシアティブ	